



高瀬中だより

郡山市立高瀬中学校
2021年9月10日(金)
《第19号》文責:校長 草野 仁

学校評価(7月実施)



教職員自己評価・生徒アンケート結果(その2)

前回に続き、下記学校経営の5つの柱3～5・*について学校評価結果をお知らせします。

【学校経営の5つの柱と10の重点事項】

- 1「創造：進んで学び挑戦する生徒の育成」
 - (1)「主体的・対話的で深い学び」による活学力の育成
 - (2)ICTを活用した「分かる授業」作り
 - 2「自立：自ら考え判断しやり遂げる生徒の育成」
 - (1)協力・協働して物事をやり遂げる生徒の育成
 - (2)自主的・主体的に取り組む生徒の育成
 - 3「健康：たくましい心と体をもつ生徒の育成」
 - (1)いじめや不登校、自殺防止に関する組織的な支援
 - (2)生徒の健康・体力の維持向上
 - 4「高瀬小・中コミュニティ・スクール」
 - (1)高瀬小・中9年間を通した教育活動の推進
 - (2)地域学校協働活動の推進
 - 5「保護者・地域・関係機関との連携」
 - (1)保護者との信頼関係の構築
 - (2)教育活動に関する不断の情報発信
- * 高瀬小中コミュニティ・スクール(CS) 共通課題
(1) あいさつがしっかりできる児童生徒の育成

■ A: とてもそう思う ■ B: まあそう思う
■ C: あまりそう思わない ■ D: 全くそう思わない

3「健康：たくましい心と体をもつ生徒の育成」

(1)いじめや不登校、自殺防止に関する組織的な支援

① 教職員自己評価結果

SCや関係機関との連携、支援計画やアンケートの活用により、組織的な支援に努めた。



② 生徒アンケート結果

先生やSCが自分のことを理解し、支援してくれるので安心して学校生活を送ることができた。



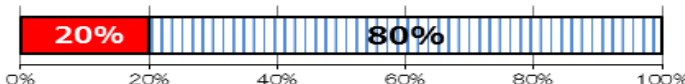
③ 考察(成果と課題)

生徒のA+B評価が92%に達している一方で、8% (3年生においては16% = 7名)の生徒がC「あまりそう思わない」と回答しています。2学期以降も、個々の生徒(特に、Cと回答した生徒)に寄り添い、十分な生徒理解を基に、組織的に丁寧で迅速な支援を行っていくことにより、いじめや不登校、自殺等の未然防止に努めていきます。

(2)生徒の健康・体力の維持向上

① 教職員自己評価結果

体育科、部活動、養護教諭と連携し、生徒の体力向上や健康教育に努めた。



② 生徒アンケート結果

保健体育や部活動、一斉歯磨き等の保健活動により、体力向上や健康について心がけ、実践した。



③ 考察(成果と課題)

充実した部活動やコロナ感染防止対策の徹底等により、教師、生徒共にA+B評価は90%を超えています。

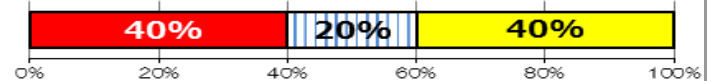
2学期は高瀬小中コミュニティ・スクールの機能を生かし、地域・家庭との連携を図りながら、SDGsを基盤とした食育(給食におけるフードロス[残菜]解消)と歯科受診率100%の取組に粘り強く着実に取り組んでいます。

4「高瀬小・中コミュニティ・スクール」

(1)高瀬小・中9年間を通した教育活動の推進

① 教職員自己評価結果

小中連携授業や小学校の授業参観を通し、ICT等小学校での指導内容や指導方法を授業改善に生かした。



② 生徒アンケート結果

小学校での学習内容や学習方法が授業に活かされているので学習活動にスムーズに取り組める。



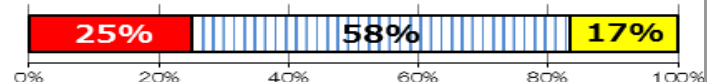
③ 考察(成果と課題)

小学校の授業参観等を通して小学校の指導内容・方法を十分に把握し、それらを授業改善に活かすことができませんでした。その結果が、教師C評価40%に現れています。生徒のA+B評価が90%を超えているのは、小学校と連携し、授業でのタブレット活用を推進した成果と言えます。小中相互授業参観等の小中連携の一層の推進が2学期の課題です。

(2)地域学校協働活動の推進

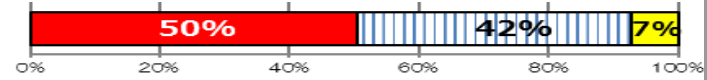
① 教職員自己評価結果

SDGsの17の目標に関連付けた教育活動の推進に努めた。



② 生徒アンケート結果

授業や生徒会活動を通してSDGsを理解し、SDGsの17の目標に関連した活動を行うことができた。



③ 考察(成果と課題)

各教科や生徒会でSDGsに関連付けた取組を継続的にを行っています。しかし、教師A+B評価は83%で、学校全体での推進が課題です。2学期もさらに高瀬小中コミュニティ・スクールのあいさつ運動、歯科受診率100%や給食残菜フードロス等、SDGsの取組を推進し、世界の持続可能な発展を目指すというグローバルな視点を培っていきます。

5「保護者・地域・関係機関との連携」

(1)保護者との信頼関係の構築

① 教職員自己評価結果

きめ細かな電話連絡や家庭訪問、マチコミの活用等により、保護者との信頼関係の構築に努めた。

